

音楽と同時に生徒が教室にやってくる。
もう忘れてしまった、学校の生活が始まる。
生徒達が揃うと、チャイムが鳴ったのだろうか
トシ子が上手からやってくる。
学級委員の号令で挨拶。
着席した後、上手から生徒が独り入ってくる。

皆に注目される中、席に着く。

音楽 C.O

授業が始まる……………（宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より）

トシ子

「ではみなさんは、さういふふうに川だと云はれたり、乳の流れたあとだと云はれたりしてゐたこのぼんやりと白いものがほんたうは何かご承知ですか。」先生は、黒板に吊した大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のやうなところを指しながら、みんなに問をかけました。

カムパネルラが手をあげました。それから四五人手をあげました。ジョバンニも手をあげやうとして、急いでそのまゝやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雑誌で読んだのですが、このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないといふ気持ちをするのでした。

ところが先生は早くもそれを見附けたのでした。

「ジョバンニさん。あなたはわかってゐるのでせう。」

ジョバンニは勢よく立ちあがりましたが、立って見るともうはっきりとそれを答へることができないのでした。

上手前客席側通路からケンジが入ってくる。

授業の様子を見守るケンジ。

それに気づくトシ子。

トシ子 ではこゝまでです。本やノートをおしまひなさい。

授業が終わり、号令。

外へ飛び出す生徒達。

ケンジ ……おう！

トシ子 ……おう。

ケンジ …一人？

トシ子 …うん。

…

ケンジ みんな、帰った？

トシ子 そうじゃない？わかんないけど。

…

ケンジ （CDを見つけて）お！…懐かしいねえ。

トシ子 …。

ケンジ （CDを聞こうとするが、ラジカセのスイッチが解らない）

トシ子 …左下、四角いところ。

ケンジ 知ってるよ。

ラジカセから曲が流れる。

…

ケンジ 懐かしいな。

トシ子 うん。

ケンジ 俺好きだったよ、この曲。

トシ子 本当。

ケンジ 今聞くと恥ずかしいけどね。

トシ子 うん。

ケンジ このCDちょうだいよ。

トシ子 やだ。

ケンジ じゃあ貸して。

トシ子 …欲しい？

ケンジ …どうしてもって訳じゃないけど。

トシ子 いいよ。

ケンジ …。

トシ子 あげる。

ケンジ …。

ケンジ 音楽を止める。

ケンジ …恥ずかしいな、やっぱ。

トシ子 …。

ケンジ いいや。いらない。(CDをケースにしまい、トシ子に渡す)

トシ子 … (受け取らない)。

ケンジ … (近くの椅子に置く) 帰るわ、俺。ごめんね。

トシ子 どうしたの？

ケンジ …。

トシ子 黙ってちゃわかんないよ。

ケンジ …。

トシ子 ねえ。

ケンジ …うん。

…

ケンジ ……あのさ、

トシ子 うん。

ケンジ …たぶん、うまく話せないと思うよ。

トシ子 うん。

ケンジ …いいかな？

トシ子 聞きたくないな、そんな話。

ケンジ …。

トシ子 嘘だよ。…なに？

ケンジ …。

トシ子 怒らないでよ。…長いの？話。

ケンジ たぶん。

トシ子 ちょっと待ってて、なんか飲もう。

ケンジ いいよ。

トシ子 待ってて。(外に行こうとする)

ケンジ トシ子、

トシ子 …ん？

ケンジ …毎日、思い出してたんだ、お前の事。

トシ子 …うん。

ケンジ 忘れた訳じゃなくて…ずっとここ来るのサボってて……だから、

トシ子 …。

ケンジ ごめん。

トシ子 ……なんだ、そんな事か。

ケンジ …それだけじゃないんだけど。

トシ子 …いいよ、時間あるんでしょ？今日。

ケンジ …うん。

トシ子 誰だってあるよそんな事。忙しいんだからさ、みんな。

ケンジ …うん。

トシ子 ちょっと待っててよ。

ケンジ …。

トシ子 お兄ちゃん。

ケンジ なに。

トシ子 元気だった？

ケンジ …お前は？

トシ子 変わらないよ。

ケンジ …そっか。

トシ子 コーヒーでいい？

ケンジ …うん。

ケンジ、またCDをかける。

トシ子 なんだ、恥ずかしいんじゃないの？

ケンジ うるせえな、いいんだよ。

トシ子 聞きたいなら聞きたいってそう言いなよ。

ケンジ 言ったよ。

トシ子 言ってないでしょ。

ケンジ 言ったって。

トシ子 はいはい。

ケンジ 早く買ってこいよ。

トシ子 ねえ。

ケンジ なに。

トシ子 もうちょっと、大きくして、音。

ケンジ …うん。

音楽がだんだんと大きくなる。

それを聞いているケンジとトシ子。